地域社会

(1) 推移と民情

浜玉町は昭和31年9月30日、旧浜崎町と玉島村が合併して誕生した町である。最初は浜崎玉島町と呼称していたが､昭和41年11月1日、浜玉町と改正され、平成17年1月1日より唐津市となる。

わが郷土玉島は、山紫水明の自然美に加えて、土地肥沃にして古来文化及び経済の面においいて、世の目まぐるしい変動の間にも常に一種の落ち着きと豊かさを持続してきた。

特に文化の面においてはその遺産が数多く現存し、古くは神功皇后にまつわる伝説や大伴旅人、山上憶良によって万葉集に詠みしるされている。さらに谷口古墳、大村神社縁起に見られるようにその昔より玉島川を中心に文化が開けた土地である。

温順、純朴の民風もこうした文化や自然の感化の中に育まれてきた。この恵まれた環境を生かして、最近は、中堅層の間には新しい気風が盛り上がり、地域の新たな活性化が図られていると同時に地域住民の考え方も少しずつ変わりはじめている。

(2) 産業経済の概況

玉島川の流れに沿って、土地は肥沃であり、平野には米の生産、また、山間原野を開墾しての柑橘栽培が盛んに行われてきた。

そして、昭和20年以降は柑橘景気の波に乗り、平坦部の水田地帯に蜜柑を植え込み、柑橘栽培専業農家が著しく増加するに至った。

しかし、近年は蜜柑の収量は全国的に生産過剰となり、品種や栽培方法も一大転機を迎え、ハウス栽培へ切り替えられた。各種の柑橘栽培の研究は極めて熱心に先進的に行われている。一方、農村地域の変革の中で、本地域でも、農業の株式会社化や、兼業農家の増加による二極化もすすんでいる。

(3) 教育に対する関心

ア．本町は、戦前、教育村として県より指定され、全村一致、教育に精進し、その実績は高く評価された。

イ．戦後、育友会（ＰＴＡ）がいちはやく誕生し、会員・指導者が一体となり教育環境の整備･充実に努め、教育に対する理解と学校への協力は県内外に誇る態勢となっている。

役員の年齢は若いが、地域と連携して活発な活動がなされている。

ウ．地域の学校に対する期待・関心は高く、協力的である。学校参観「愛育学級」を実施し、学校の教育活動への理解、信頼が深められている。

エ．祖父母学級や春秋会（老人会）との交流、サークルクラブを実施している。

オ．ＰＴＡの活動が顕著であることから、九州ブロックＰＴＡ協議会より表彰(平.12)。

佐賀県PTA連合会より表彰(令和.６)